

て二十三里、巳午伊勢界鈴鹿越より子丑越前界虎杖越いたどにいたつて二十八里、坤山城界相坂越より、巽伊勢鈴鹿越にいたつて十六里、子亥美濃界藤川越より、巽越前界にいたつて十五里あるなり。

〔近江國輿地志略四路〕官路 東海道、中山道是なり、二道は京師より江戸にをもむくの路なり、其路俱に近江の國を歴るなり、沿革あつて古の如くにはあらずといへども、其名はかはらず、其驛も皆々かはりて、昔し驛なりし處も郊野となり、田畑なりし地もいま驛となるところ多し、源順が和名抄に驛家南北にありと云るせし篠原も、いまは驛にあらず、東鑑盛衰記等をかながうれば、鏡の宿野路の宿などあれば、治承壽永のころは、是も驛なりと見えたり、古へのことは皆かくのごとくかはれるたぐひたり、驛のみに、今驛は東海道にては、大津、草津、石部、水口、土山なり、中山道にては、守山、武佐、愛智川、高宮、鳥本、番場、醒井、柏原なり、按ずるに日本紀略に、延暦十四年七月辛の卯、遣左兵衛佐橋入居、檢近江若狹兩國之驛路とあり、○中略

東海道 十四里三十四町五十五間なり、山城近江兩國の界、追分長町より、近江伊勢兩國の界、鈴鹿越に至つてのつもりなり、山城の國界、追分長町より、六町四十五間、東に一里塚あり、是より一里ごとに此塚あり、當國東海道の終の一里塚より、伊勢の國界、鈴鹿越まで二十八町十間あるなり、
中仙道 十九里二十八町三十五間なり、山城近江兩國のさかい、追分長町より、近江美濃兩國のさかい、寢物語にいたつてのつもりなり、近江の國一里塚ある所より、國堺寢物語まで二十二町五十五間あるなり、

越前路 十二里三町二十四間なり、越前近江兩國のさかい、國堺嶺より、近江美濃兩國のさかい、夫婦岩までの積なり、近江一里塚あるところより、越前國界に至つては十三町二十四間あり、近